



チーム三村小

中央市立三村小学校
学校だより 第6号
令和6年10月4日
校長 雨宮博之

【学校教育目標】『夢をもち 主体的に学ぶ子どもの育成』（「やる気」「やさしさ」「こん気」「げん気」を育む学校）

秋季大運動会

9月28日の土曜日に、三村小学校秋季大運動会を無事に開催することができました。当日は天候にも恵まれ、ご来賓、保護者、地域の皆様、多くの方にご参観いただきました。また、観覧に当たっては、出場する学年を優先する「応援・撮影ゾーン」への移動等、ご協力ありがとうございました。



子どもたちは「絆～勝利を目指し心燃やせ～」のテーマのもと、赤組も白組も最後まで精一杯の頑張りを見せてくれました。まさにこのスローガン通りにできた運動会だったと思います。仲間と助け合い・応援し合う姿、最後まで走り切る姿、真剣な顔つきややり切ったときの笑顔など、日常生活では見られない場面がたくさんありました。また、高学年児童は係の活動においても一生懸命に行い、運動会の支えとなりました。

約3週間に及ぶ運動会に向けての練習や取り組みを通

して、子どもたちは、集団で行動することの大切さや友だちと技を創り上げていくおもしろさ・楽しさ、またうまくいかないことへも励まし合って頑張ることなど、たくさんのことを学び、一回りも二回りも成長したことと思います。特に高学年児童は三村小のリーダーとして、この運動会を立派に運営し、素晴らしい演技を見せてくれました。下級生は上級生の演技や立派な仕事ぶりを憧れの眼差しで見つめていました。こうして、三村小の運動会の歴史が作られ引き継がれていくのだと思います。



保護者・地域の皆様には、今後も三村小学校へのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

運動会で身に付けた力

運動会が終わって、お子様の様子はいかがでしょうか。達成感にあふれた児童、もっとできたのではないかと反省する児童、頑張った毎日に充実感を持った児童、様々な思いを持っていることと思います。



愛校作業(石拾い)

運動会は、自分一人ではすることができません。そこには仲間があり、集団があります。ルールもあります。やめたい、つらい、面倒だからといって勝手に終わることはできません。日々の練習の中で葛藤し、悩み、解決策を模索する。つらさや制約、ハードルや壁を仲間と共に乗り越え、成功させるために頑張ること



愛校作業(石拾い)

ことで、一人一人が成長し、質の高い集団を作っていくのだと思います。日々の練習や話し合いを積み重ねた結果が本番だと考えます。本番当日よりも準備期間の方が子供たちをより成長させているように感じます。本番が終わり、振り返って次につなげることでさらに成長するのだと考えます。

もちろんこの1回の運動会で急に生活や行動が極端に変わることはないと思いますが、それでも「以前より粘り強くなった」「自分以外の人に気遣いができた」「面倒くさい、という回数が減った」など、変化が見られたら、きっと自分でも気づかぬうちに成長しているのだと思います。学校でも運動会を通して成長した変化を見逃さないようにしていきたいと思います。



秋の気配

9月に入り、6年生の廊下も秋の気配が訪れてきました。9月17日は中秋の名月でした。月を見上げてみてでしょうか。何かと気ぜわしい日々が続く、月や雲、草木



や花々に思いを馳せる余裕がなくなっているような気がします。祖先がどんな思いで月を眺め、季節の移ろいを感じてきたのか、そんな思いを掻き立ててくれる掲示でした。深まりゆく秋を感じながら、秋の夜長をゆったり、まったり過ごしてみたいと感じました。

運動会ギャラリー



低学年表現



中学年表現



高学年表現



三村タイフーン



三村タイフーン



6年生1ルー

